

# 秋保 いってみっぺ

秋保温泉から西に向かう道の名取川を挟んだ南側にどっしりと構える大倉山。山頂に羽山権現が鎮座し、テレビの中継アンテナが立つ境野地区のシンボルの山です。

羽山橋から名取川の河岸にそそり立つ奇岩を眺めつつ市道を上り、参道入口から修験の屋敷があった鳥居をくぐって、標高差約300mの頂上を目指します。

ほぼ直登に近い厳しいルートですが、山頂からは秋保温泉や仙台湾を望むことができ、朝日の御来光を背に羽山権現(月山権現)を拝礼することができます。

秋保の修験の聖地をめぐる、少しスピリチュアルな山旅。先人たちの祈りを体感し、心と体の充電を試みましょう。

## 巨岩と羽山信仰 大倉山へ

### いってみっぺ 秋保 巨岩と羽山信仰 大倉山

企画・発行：秋保地域資源活用委員会・仙台市  
連絡先：秋保総合支所総務課(022-399-2111)  
秋保市民センター(022-399-2316)

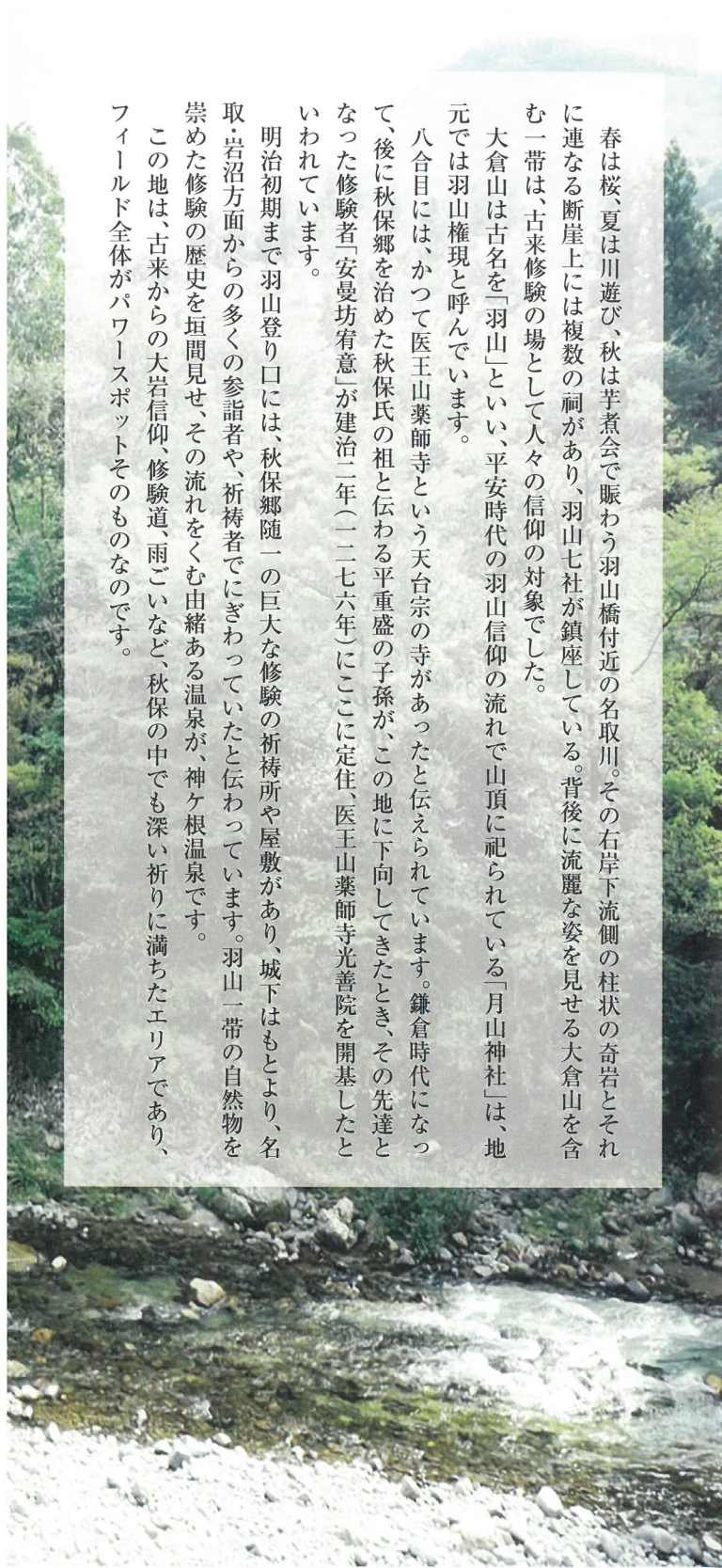
名取川にそそり立つ奇岩から  
山頂に鎮座する御神体へ  
・・・そして、幻の佛岩を探索する  
伝説の大岩を巡りながら祈りの山を巡ります

掲載されている情報は、平成30年3月現在のものです。

訪れてみたい秋保  
二口街道ツアー 62

No.16

春は桜、夏は川遊び、秋は芋煮会で賑わう羽山橋付近の名取川。その右岸下流側の柱状の奇岩とそれに連なる断崖上には複数の祠があり、羽山七社が鎮座している。背後に流麗な姿を見せる大倉山を含む一帯は、古来修験の場として人々の信仰の対象でした。  
大倉山は古名を「羽山」といい、平安時代の羽山信仰の流れで山頂に祀られている「月山神社」は、地元では羽山権現と呼んでいます。  
八合目には、かつて医王山薬師寺という天台宗の寺があったと伝えられています。鎌倉時代になって、後に秋保郷を治めた秋保氏の祖と伝わる平重盛の子孫が、この地に下向してきたとき、その先達となった修験者「安曼坊宥意」が建治二年(一二七六年)にここに定住、医王山薬師寺光善院を開基したといわれています。  
明治初期まで羽山登り口には、秋保郷随一の巨大な修験の祈禱所や屋敷があり、城下はもとより、名取沼方面からの多くの参詣者や、祈禱者でにぎわっていたと伝わっています。羽山一帯の自然物を崇めた修験の歴史を垣間見せ、その流れをくむ由緒ある温泉が、神ヶ根温泉です。  
この地は、古来からの大岩信仰、修験道、雨ごいなど、秋保の中でも深い祈りに満ちたエリアであり、フィールド全体がパワースポットそのものなのです。



# 大倉山・羽山権現

秋保全体図



## 1 羽山橋・羽山七社



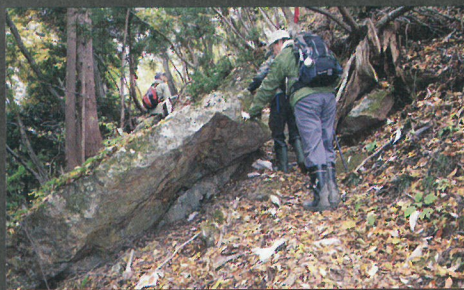
名取川右岸側の柱状の奇岩とそれに連なる断崖上に、羽山七社とも羽山四社ともいわれる複数の祠が鎮座している。法界萬霊碑の看板から光善院歴代法印の墓所を抜けると祠を拜むことができる。

## 2 登拝口(羽山口)



羽山(大倉山)の登り口は民家の間を抜けた草地の奥で石の鳥居が立っている。ここは、かつて秋保五ヶ村の修験を取りまとめた寺院である光善院の屋敷跡で、鳥居の両側には、庭園の池の雰囲気を醸うことができる。

## 3 登山道(修験の道)・幣束岩群



杉林の間をぬって斜度22°の急な坂が続く、修験の厳しさを少し実感しながら登っていくと、中腹から巨岩が現われ三ヶ所の岩陰に幣束が置かれている。これらは古くは奏神社と呼ばれ、この山と岩が祈りの対象であったことの証である。

## 4 大倉山山頂・羽山権現社



晴れた日には、太平洋を望むことができる頂上には、3間四方の堂宇、月山権現が鎮座している。ここから約10m奥に、深さ直径共0.5mの穴を有する、幅4m・高さ1.5mの巨石がある。「おみたらし」あるいは「大岩の神壺」と呼ばれ、どんなに日照りが続いてもこの穴の水が溢れず、これを掻くと雨が降ると言い伝えられ、干ばつの時は雨乞いの儀が執り行われた御神体である。

羽山口 ➡ 大倉山頂 約0.9km  
上り60分、下り90分 一周2時間30分



## 8 神ヶ根温泉 薬師堂



秋保郷の修験を司った羽山光善院の末裔秋保家が「羽山(月山)権現」御授けの湯として開湯、神ヶ根温泉と名付けられた。かつて羽山登山口付近にあった薬師瑠璃光如来も当地に移され、訪れる人々の参詣を受けている。傍らにたたずむ池とともに風雅な景観が魅力。

## 7 安達古道入口



安達古道の入口付近には、道標の馬頭観音がある。かつて道沿いには5軒の屋敷があったといわれている。

## 5 大倉山管理道分岐(井戸沢林道へ)



山頂から一旦テレビ中継アンテナの管理道路を下り、蔵王連峰と手前の三森山・奇峰「オボコンベ」を望んで、間もなく細野原への分岐標識があり、管理道路から南(左)に分かれて、今は送電線管理道となった道を下る。大倉山の南～東側斜面を送電線に沿って安達古道との合流点まで下る。コース上や鉄塔周辺に軽石の層が見られるが、これは今からおよそ8万年前の後期更新世に、たった一度噴火した安達火山の噴出物と思われる。

## 6 安達古道(井戸沢林道)



細野原までの道は、古くは東街道から二口街道を通って秋保に入り、分岐して川崎を經由笹谷街道と合流し山形へ通じる往還であったと伝えられている。今は通り抜けることは難しいが、杉の美林が続き、針葉樹の景観が気持ちいい。